



仙台堀川周辺の変遷：※国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス：(<http://maps.gsi.go.jp/maplibSearch.do>) より

仙台堀川公園及び沿道整備 基本計画策定委託

報告書 ー概要版ー

平成27年3月

大日本コンサルタント株式会社

目 次

1. 業務概要	1
2. 事業の概要	2
3. 基本方針・デザインコンセプト	3
4. 全体幅員構成	4
5. ソーニング	5
6. 整備方針	6
7. 個別ブロックの方針（Aブロック）	7
8. 個別ブロックの方針（Bブロック）	9
9. 個別ブロックの方針（Cブロック）	13
10. 個別ブロックの方針（Dブロック）	17
11. 動線計画	19
12. 今後の課題	20

(1) 業務概要

業務名 : 仙台堀川公園及び沿道整備基本計画策定委託
 業務場所 : 江東区北砂六丁目19番先から東砂七丁目24番先
 履行期間 : 平成26年6月26日 ~ 平成27年3月31日
 発注者 : 江東区 河川公園課 計画調整担当
 受注者 : 大日本コンサルタント株式会社

(2) 業務目的

- ・仙台堀川公園は、大横川から小名木川合流点まで総延長3,700m、面積10.4haに及び都内最大級の親水公園である。
- ・仙台堀川の岸边には桜並木、花の小径、サイクリングロード、親水池、さらに果実の森、科学の森をはじめとする7つの森が続き、春には桜、夏から秋の果実、紅葉と人々の目を楽しませているとともに、みどりの拠点として連続かつ多様なみどりが創出されており、本区の重要な歩行者・自転車動線として活用されている。
- ・しかし開園後約30年以上を経過し、施設の老朽化や自転車の通行量増加による公園機能の阻害、水路の水質悪化などの課題が生じてきていることから、平成29年度から公園の改修工事を予定している。
- ・また、公園の両側の道路（区道・相互通行）については、幅員が狭く、車両の通行は比較的少ないものの、速度が出しやすい道路構造（直線区間）であるため、交通安全上の課題等があることから、公園整備に合わせて電線地中化（無電中化）を含む道路整備を予定している。
- ・本業務は、整備工事のための設計の前段階として、基本計画を策定することを目的としている。基本計画として、仙台堀川公園を中心とした、水と緑を生活の中で身近に感じることができる、うるおいのあるまちづくりや、城東地区の交通環境改善を念頭に、親水公園と隣接する道路を一体的に整備するための検討を行うものである。

(3) 業務内容

ア. 基本計画

現況把握、敷地分析のうえ、計画方針およびデザインコンセプトを設定し、基本計画説明書（平面図、断面図）・基本計画図の作成、概算工事費・管理運営費を算出した。

イ. 撤去設計

既存施設についての調査・分析・評価し、撤去・改修の方針・判断基準（案）を設定した。

ウ. 関係機関との協議用資料作成

交通管理者、および江東区大規模公園リニューアル委員会に向けた資料の作成を支援した。

エ. 区民の合意形成のための意見・課題整理に係る支援

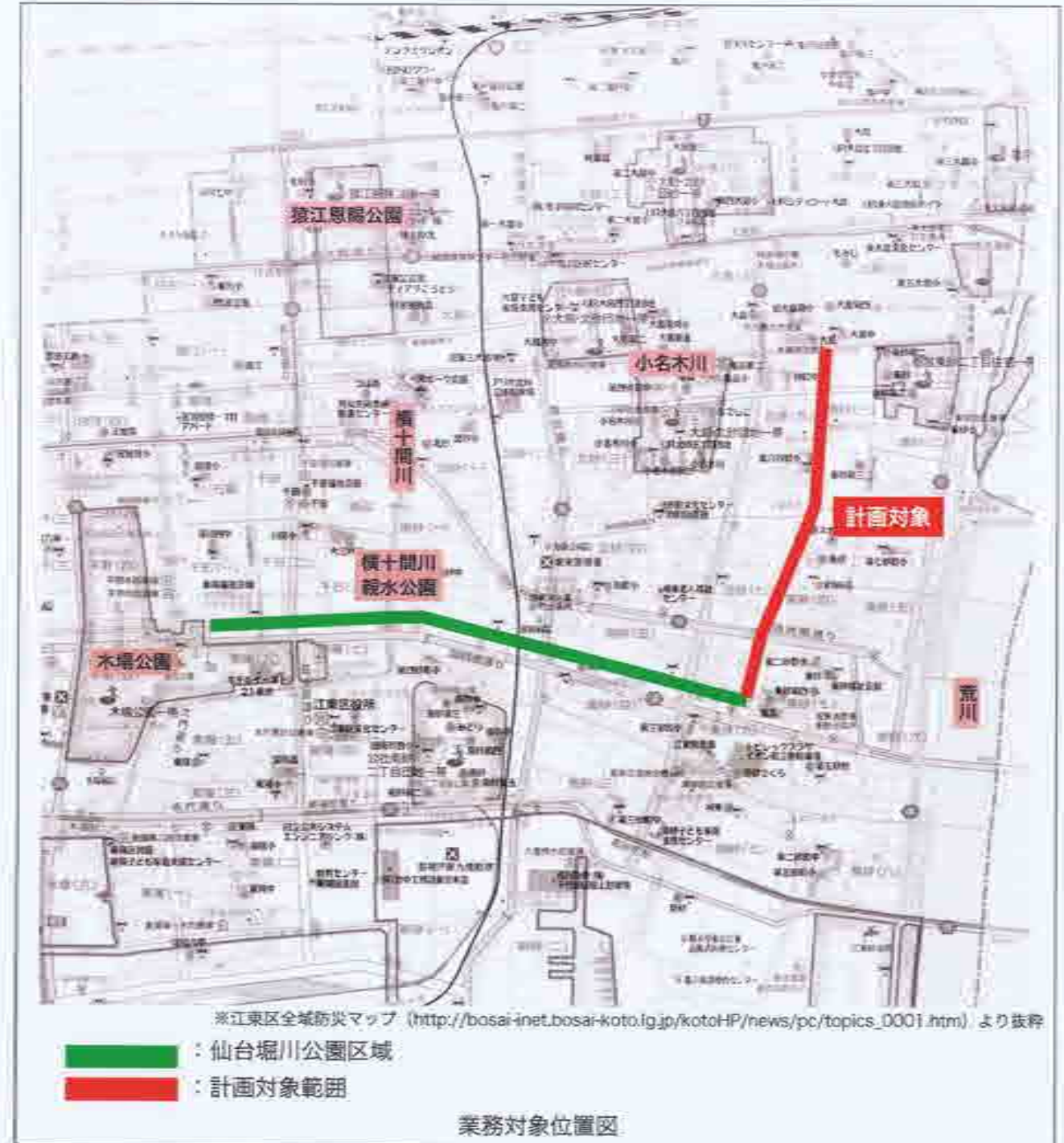
広報誌による意見募集の結果分析、および住民説明に向けた資料の作成を支援した。

オ. 鳥瞰図または透視図の作成

関係機関協議に係る視覚化資料として、検討用模型（計画・現況）を作成した。（協議確認）

カ. 設計協議

(4) 対象位置



2 背景・課題

北砂・東砂の境に位置する仙台堀川公園のうち、城東地区を南北に縦断する 1.4 km 区間について、昭和 50 年代に整備された施設の老朽化や、交通安全などの課題解決のため、公園の改修工事を予定している。

- 交通安全：公園内の歩行者と自転車の錯綜 → 自転車走行空間の確保
- 快適：施設の老朽化、親水性が低い水路 → 親しみやすい河川、実感できる緑の創造
- 防災：両側道路の狭い歩道と電柱の存在 → 無電柱化による歩道、ライフライン安全性の向上

道路・公園・河川の一体整備により解決



(1) 背景

- ・区民に親しまれる総延長 3,700m、面積 10.4ha に及ぶ都内最大級の親水公園
- ・親水性のあるみどりの拠点のほか、砂町を南北に結ぶ重要な歩行者・自転車動線として機能

(2) 課題

- ・施設の老朽化や自転車と歩行者の錯綜、植栽木の生育不全など
- ・逐次改修されたことによって、施設・植栽の配置が混乱
- ・公園の両側の道路は幅員が狭く、安全性に課題

(3) 事業の目的

- ・砂町地区における水と緑を身近に感じる、**潤いのあるまちづくり**の進化
- ・公園と道路の一体整備による、**親水性の高い、緑豊かな憩い空間の創出**
- ・**安全な遊歩道、自転車道、車道の機能を充足した交通環境の改善**
- ・「みどりと自然の基本計画」に位置付けられる**避難路ネットワークとしての機能確保**
- ・周辺地域との連携を考慮し、現在に相応しい**適切な公園空間、施設、植栽の再配分・配置**

(4) 現地状況



(5) 地域からの意見（平成 26 年度アンケート結果概要）

公園	歩行者と自転車の分離（安全・快適に歩行できる園路） 水路の親水性の改善、壁当ての存続や運動機能確保、桜の名所の存続 護岸撤去による公園と道路の高低差解消
道路	自動車のスピード抑制、電線地中化
その他	住民との意見交換による計画策定

3. 基本方針・デザインコンセプト

■デザインコンセプト

砂町の真ん中に張り咲く、 安全で親しみのある緑道・親水公園へのリノベーション

Point

- 真ん中・・・人を惹きつけるリクリエーション機能、イベントで集まれる広場、地域を代表する景観
- 安全・・・両岸道路も含めた再配分によって、自動車・自転車・歩行者にとって心地よい空間
- 親しみ・・・住宅・道路・公園を緩やかに分節し、入りやすい、相互に視線が通る空間
- 緑道・・・災害時の避難路にもなる細長い敷地を活かして、明るい緑陰の中を飽きずに歩ける環境
- 親水公園・・・運河としての歴史をベースに、敷地内に自然に水が引き込まれることを活かした親水空間

公園ができるまでの周辺状況

- ・開削当時は貯木場などがある工場地帯、1960年代には急激な宅地化が始まり、公園や小学校が設置
- ・東京では多くの水路が暗渠化され失われたが、砂町では豊かな住環境を目指し**運河は公園に再生**

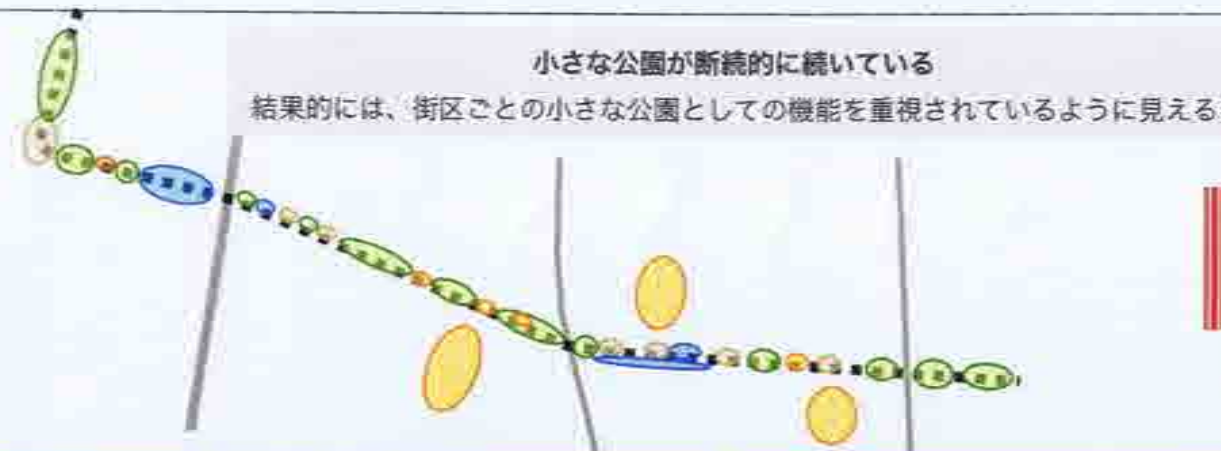
公園ができるから現在までの30年間の変遷

- ・開園当初は、更なる宅地化に応える「子どもたちの遊び場」として整備を重視
- ・沿道の公園の再整備、スポーツセンター・ショッピングモールなど、周辺のリクリエーションの充実

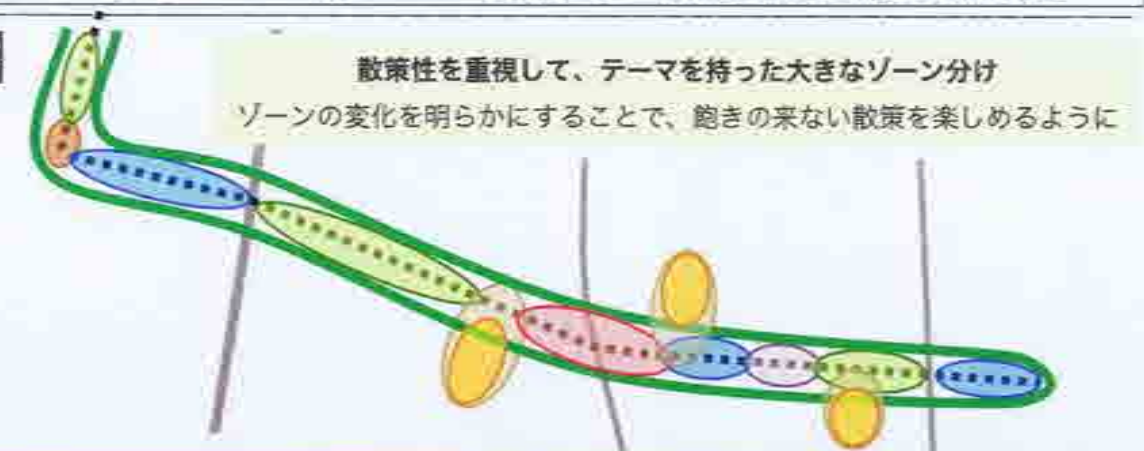
これからの時代に求められる姿

- ・次の30年間に對して、多様かつ高いニーズにも対応できる柔軟性
- ・日光を浴びる、水や緑に囲まると気持ちいいという人間としての普遍的な欲求を満たす自然の公園

現況



整備イメージ



簡易模型 (S=1:100)



全断面構成

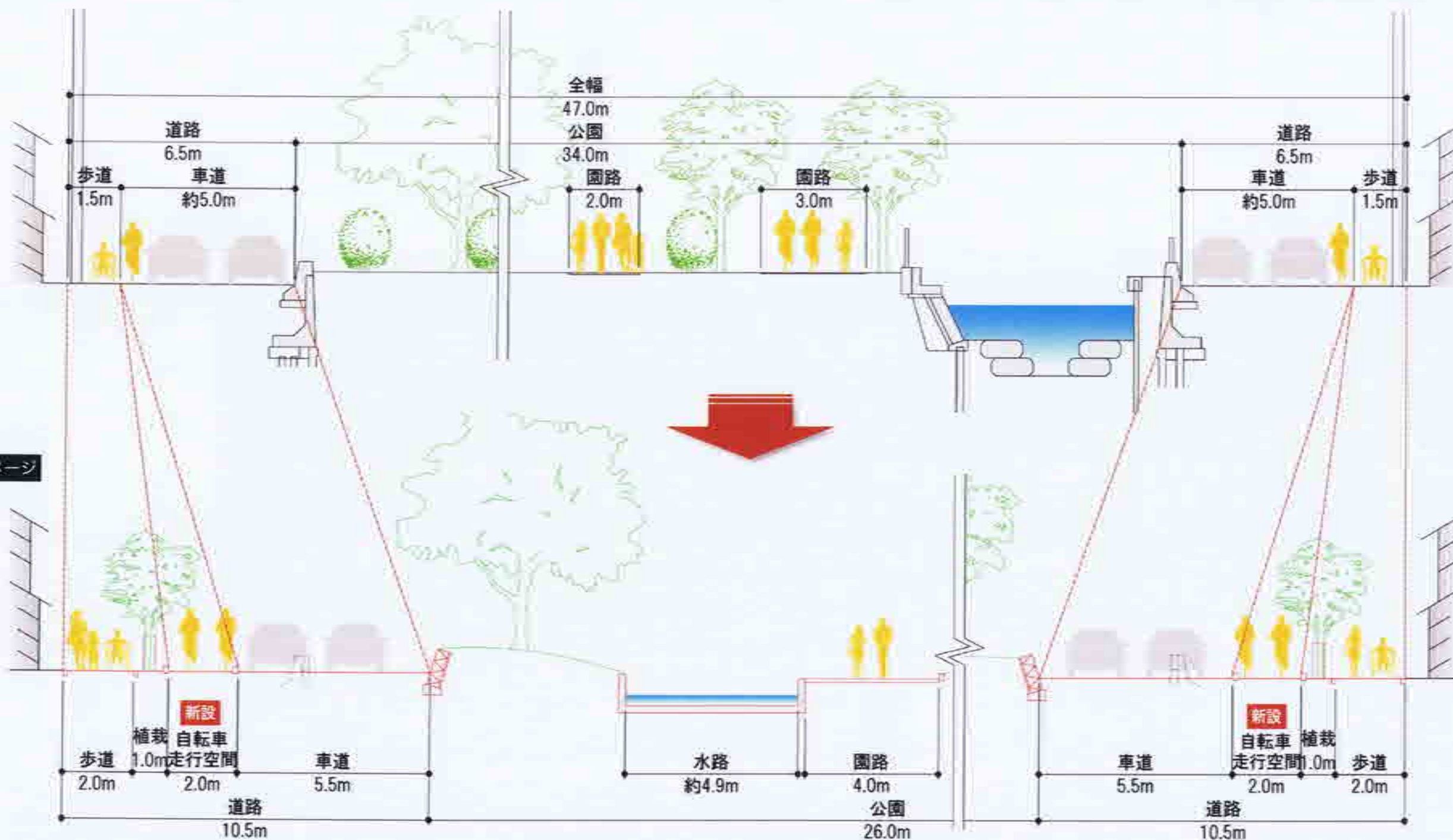
公園、道路を含めた全体幅員の中で 歩行者、自転車、自動車動線の最適化

公園内から自転車動線を排除し、公園機能の向上、歩行者の安全性を確保
両側道路に歩道、自転車道を確保し、それぞれの動線の安全性、円滑性確保
電線地中化による道路空間の有効活用

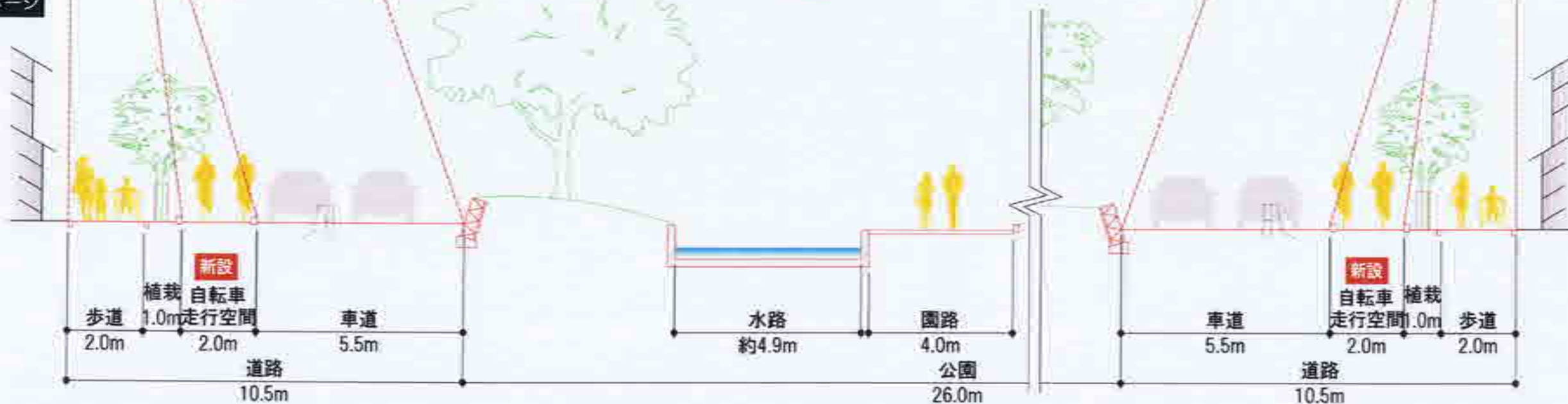
断面構成

歩行者動線	公園内は歩行者専用、園内に 4.0mの歩道 を確保 両側道路に 2.0mの歩道 を確保
自転車動線	公園内の通行を抑制、両側道路に 2.0mの自転車道 を確保 ※全国統一の新形式「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」(h24.9) に準拠 ※自転車道と歩道の間に、1.0mの施設帯を確保。電線地中化の地上機器や植栽を配置
車道	現況 (5.0m) ではすれ違いがしにくいため、若干の拡幅を行い 5.5mの車道

現況



整備イメージ



3. ゾーンニング

細長く連続する敷地形状に対して、統一したデザインコンセプトのもと、散策利用の観点から、園道特性に応じたダイナミックの変化によりメリハリを付与する明確なゾーン分けを行った。

なお、交差道路にて町会が分かれているため、計画書では便宜上、これを目安に南から順にA～Dの4ブロックとするが、あくまでゾーンにより変化させることとし、交差道路による分断感を回避する。

ゾーンの解説

サクラゾーン（緑道）

名所として区民に親しまれているサクラは、計画対象区間の中心に集中的に配置、イベント会場としての活用も視野

カナルゾーン（親水公園）

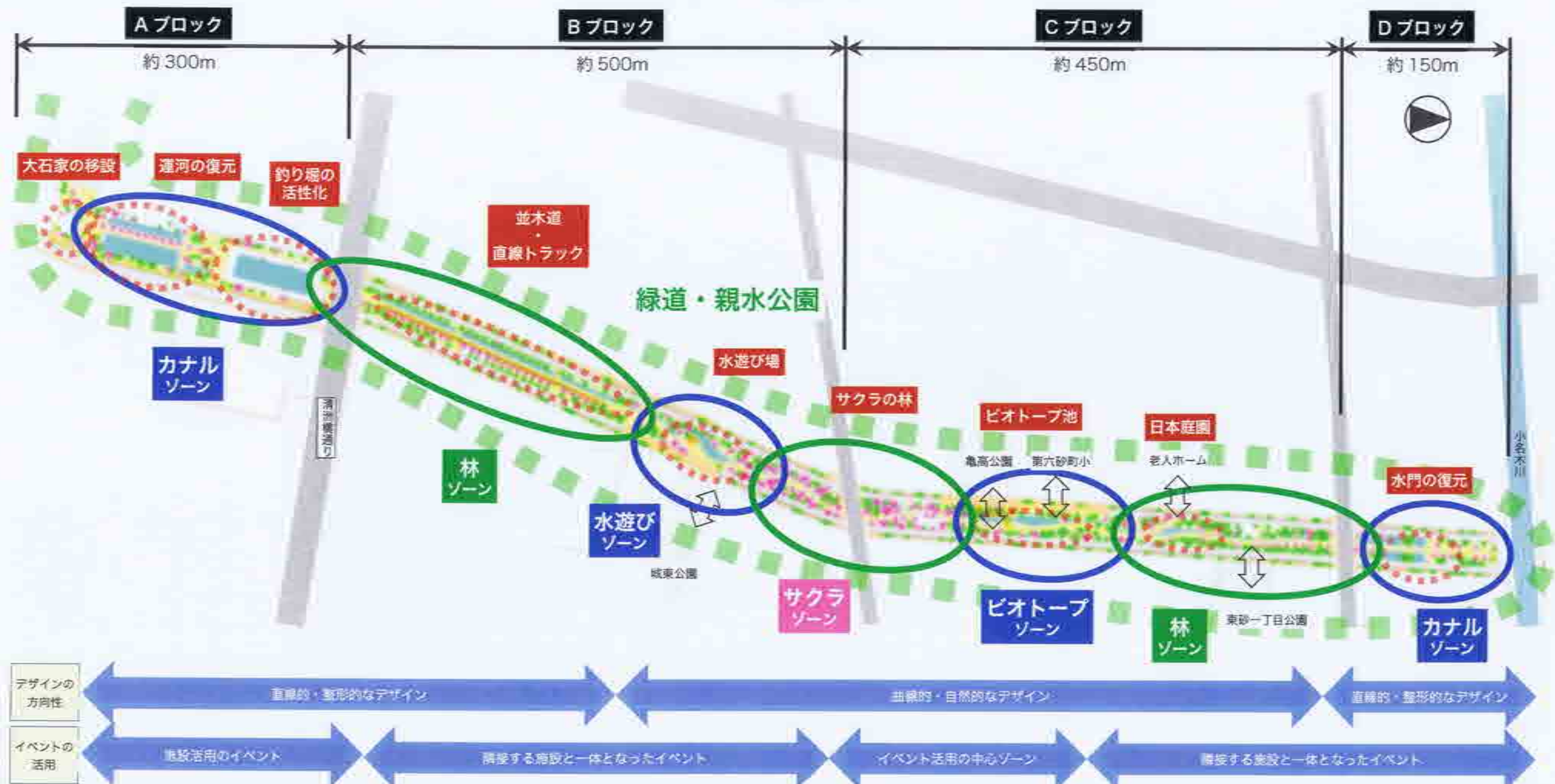
砂町の発展を支えた運河を礎に持つ公園として、その歴史を継承する存在を両端に配置

水遊びゾーン、ビオトープゾーン（親水公園）

親水性向上のポイントとして、水遊び場・ビオトープを進化

林ゾーン（緑道）

これらを繋ぐ区間には、緑豊かな林ゾーンを配置



■水路

東側に片寄せとなっている水路は、道路の拡幅により移設が必要ことから、全面的に付け替える。人が近づけるように転落防止は、低木植栽を基本として、極力防護柵を避け親水性を高める。

■基盤造成

道路は家屋が隣接することから、路面レベルは変更しない。公園内は、現況の生育状況から地下水が高いことが分かるため、盛土により植生基盤を確保するが、視線の通りに配慮する。

■植栽

基盤条件からシイ・カシ類の常緑樹種と、象徴的存在であるサクラを主体とする。ただし、自然を基調とする日本庭園を意識して、四季の変化に富む落葉樹種を多用する。

■外周形態

車両の逸脱防止が必要となるが、防護柵による威圧感のある分離を避けることと同時に、道路側から視線を通すため、腰高の石積み擁壁を基本とする。

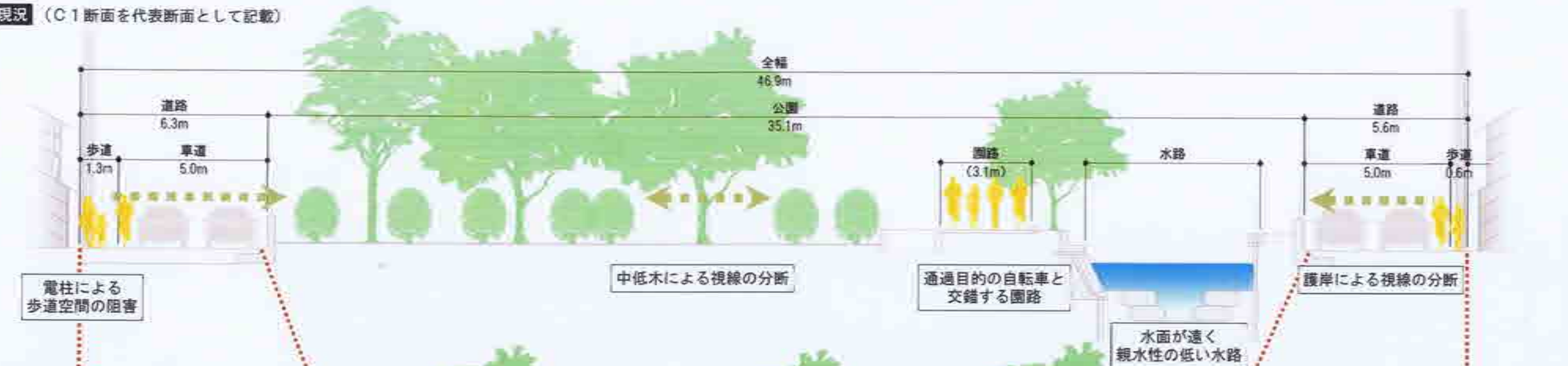
■隣接する公園との連携

城東公園や亀高公園などの隣接する公園と仙台堀川公園は、一体的な活用が可能なように、車道舗装を園路や歩道舗装と同一の素材を用いて、車両の通行の抑制に務める。

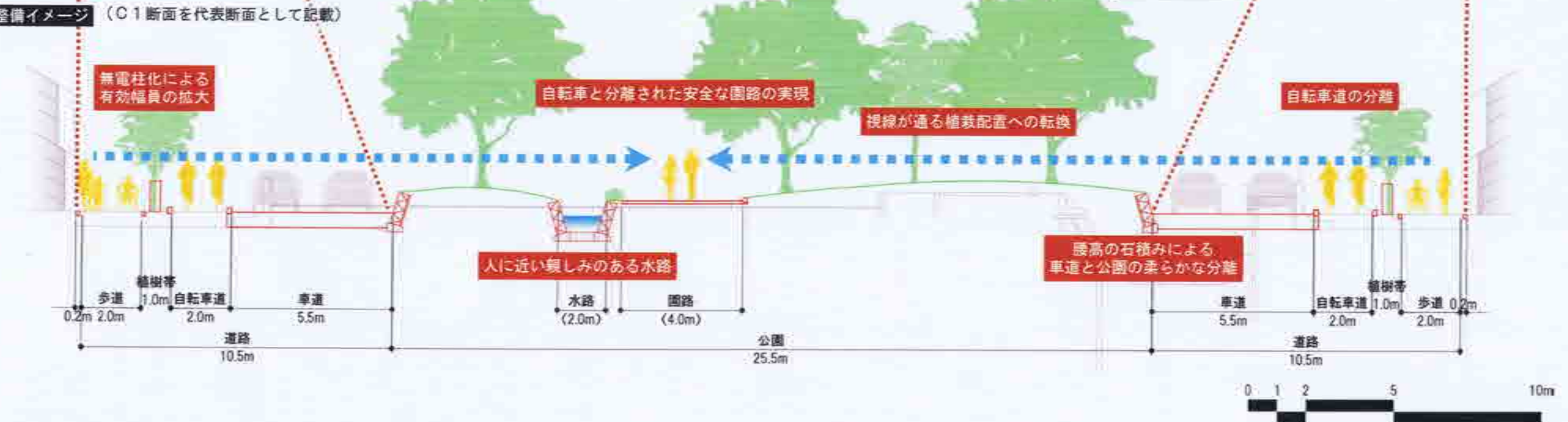
■自転車交通の分離(再掲)

ゆったりとした散歩路とするため、公園内は歩行者専用とする。自転車走行空間は、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」(h24.9)に準拠して、車道に隣接して新規に設置する。

現況 (C1断面を代表断面として記載)



整備イメージ (C1断面を代表断面として記載)



運河の発展の歴史をアピールする水辺の形成

1. 大石家の移設

- ・現況は、緑側が西向きとなっており、全貌が見えにくい。
- ・地域の歴史を物語る旧家を公園の象徴とし、運河の軸線上に移設することで、屋敷周辺広場と家屋の活用を図る。

2. 運河の復元

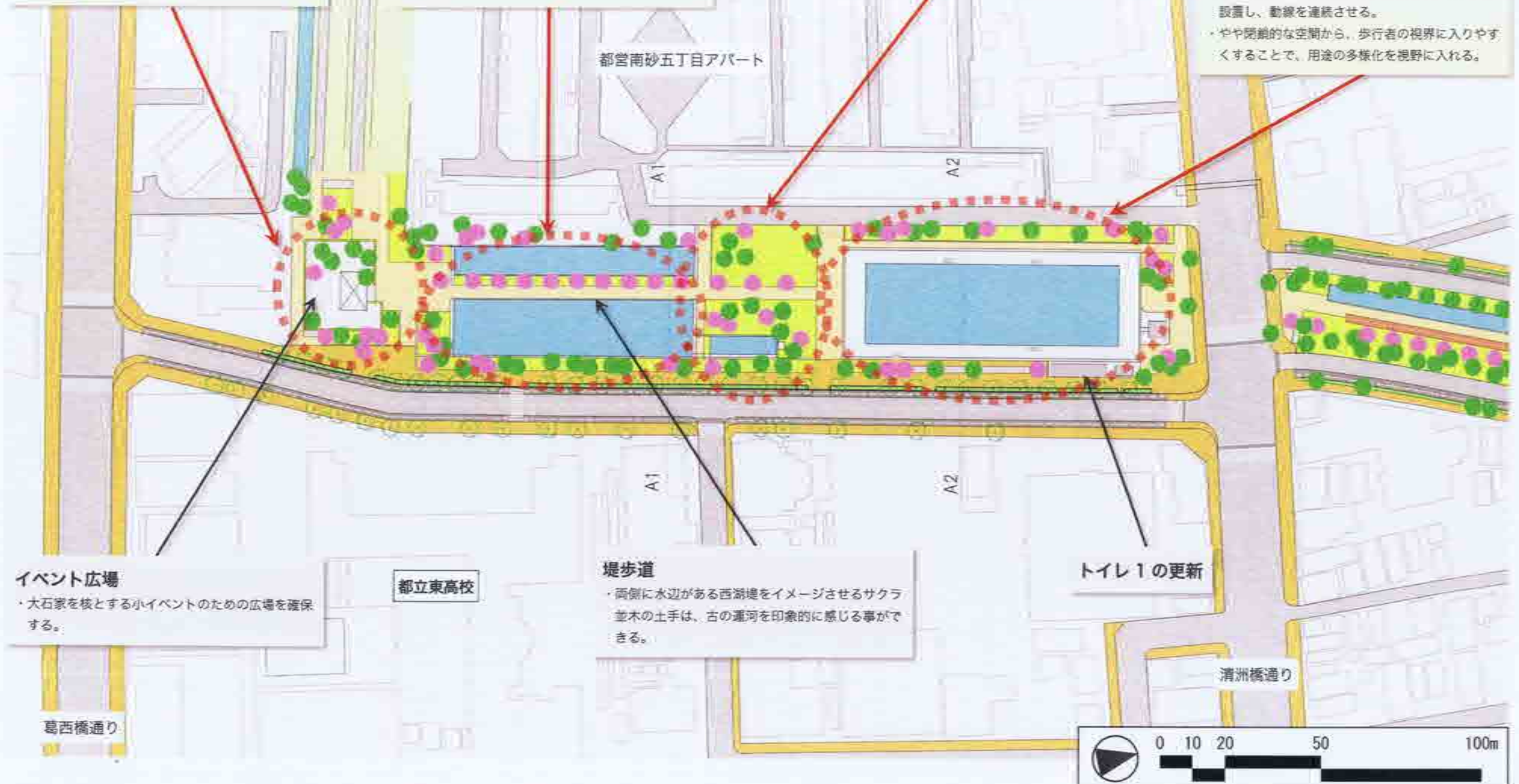
- ・両側道路への自転車道の設置に伴い、大半の護岸が失われることとなる。
- ・整備後も当時の護岸が残る状況を利用して、砂町地区の発展の礎となった当時の運河を想起させる水辺空間を創出する。

3. 芝生広場の確保

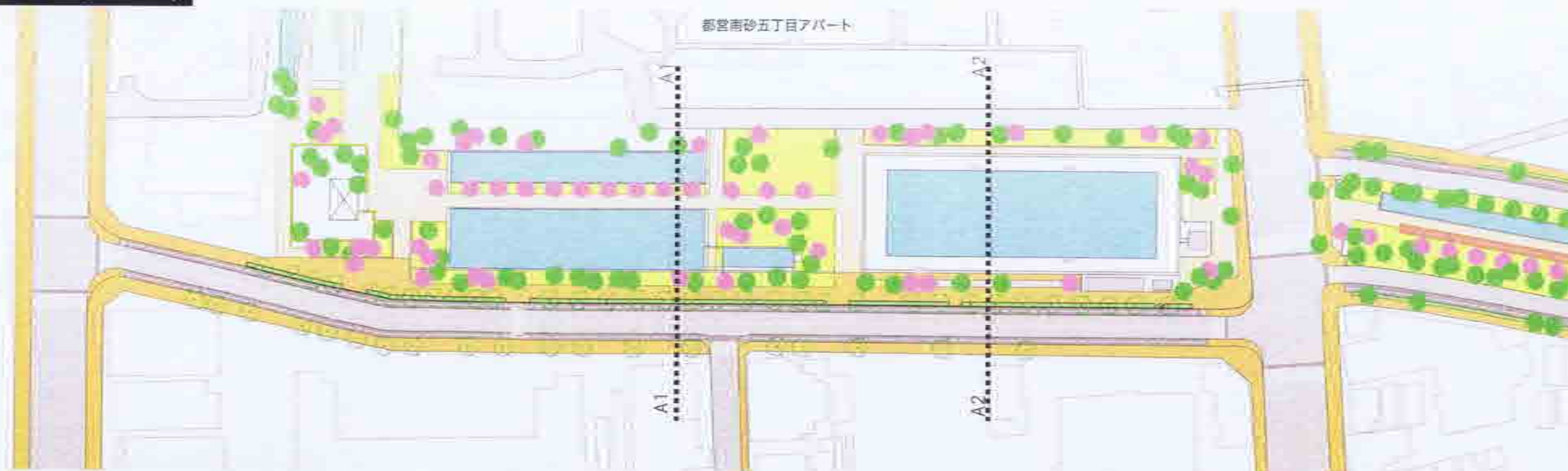
- ・公園内で最も大きい面積を確保して、ゆっくり休憩できる空間を創出する。
- ・一時避難場所としても機能する。

4. 釣り堀の活性化

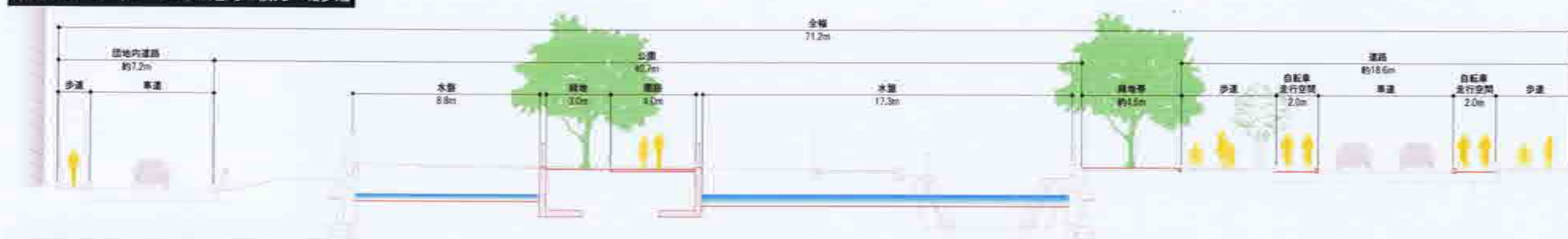
- ・区民から好評を得ているため、現状維持を基本方針とする。
- ・現況は、釣り堀横の通り抜けにあたり、歩行者は公園外の西側道路の歩道を利用していることから、都営アパート側に護岸空間を利用した歩道を設置し、動線を連続させる。
- ・やや閉鎖的な空間から、歩行者の視界に入りやすくすることで、用途の多様化を視野に入れる。



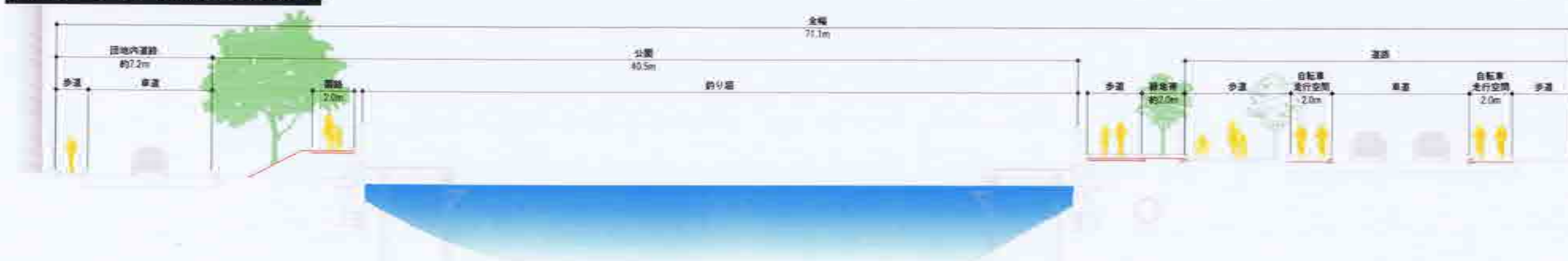
平面イメージ (Aブロック)



断面イメージ (A1-A1) : 運河の復元・堤歩道



断面イメージ (A2-A2) : 釣り堀の活性化



5. 直線的な並木道による引き締め

サクラのシンボルゾーンへ誘う直線基調の林のゾーン

5.直線的な並木道による引き締め

- ・全体的に整備する自然基調の曲線園路との対比として、直線的なゾーンを設けることで、整然とした空間を創出し、多様に展開する空間を格調高く引き締める。
- ・これに合わせて、園路に並行したトラックを設けて公園利用の多様性を図る。

トラック (100+100m)

- ・細長い敷地形状を活かして、しっかり走れるようなトラックを用意する。
- ・珍しい全長200mトラックは、リクリエーションに寄与する。

カナル

- ・水を基調とする公園であり、様々な水の姿を見ることが重要である。
- ・上下流域に用意する歴史的な運河の復元と自然基調の流れの間に、西洋庭園におけるカナルを通す。

桜並木

- ・直線の並木道には、8m間隔にて整然とサクラを配置することで、サクラ広場と対称的な形でサクラのシンボル性を強調する。



土の広場

- ・軽運動のための空間としてクレー舗装による広場は、要望を踏まえて適宜配置する。
- ・一時避難場所としても機能する。

園路

- ・緊急車両の通行に配慮して、幅員は4mを確保する。



サクラのシンボルゾーンへ誘う直線基調の林のゾーン

6.開放的な水遊び場への進化

- ・親水性の体現する水遊び場を検討する。(ワンダフル広場の進化)
- ・イベントの開催にも配慮して、城東公園との連携を目指し、一体となった広場空間を確保する。
- ・なお、水辺空間での休憩や、子どもの水遊びを見守れるように、拠点となる四阿を設置する。

徒歩池

- ・子どもの水遊びを想定して、水に入って遊べるように水深を浅くすることで、安全な空間とする。

8.公園を印象付けるサクラ空間の確保

- ・仙台堀川公園を印象付けてきたサクラは、基調種として引き続き全域に配置するが、このゾーンでは、意識的に多く配置し、「公園のシンボル」となる空間を目指す。
- ・園外にもサクラの配置を行えば、さらに印象が強くなるため、地域への協力も検討していく。
- ※現在はソメイヨシノだが、立地的に弱いので樹種の入換えを検討する。



7.城東公園と一体化

- ・道路舗装を園路と同じ印象を与える仕様として、一体化を図る。
- ・公園側も植樹帯を割愛するなど、広い舗装空間とすることで、イベント空間としての活用に対応する。

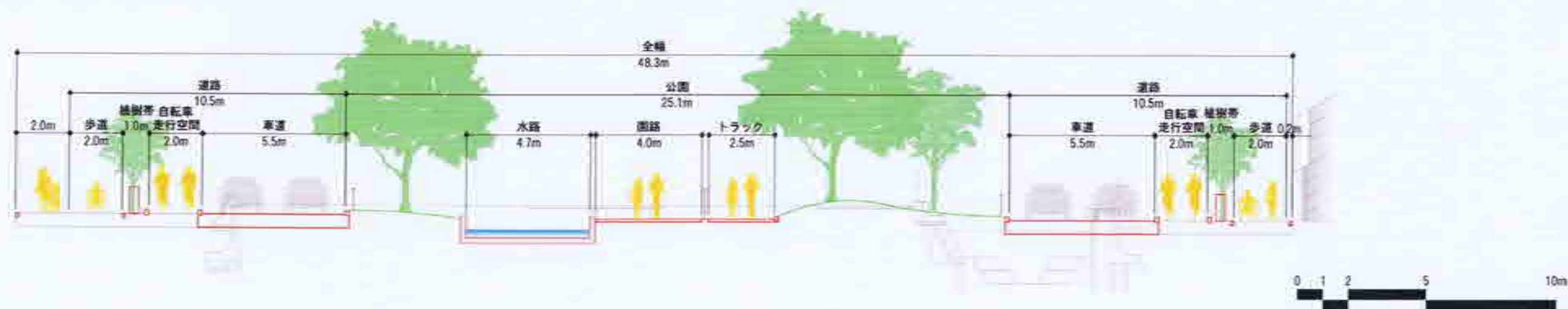
イベント林間広場

- ・お花見の時にイベントの要に対応できるように、中低木植栽を控えて林床をすっきりさせた空間とする。

平面イメージ（Bブロック：南側）



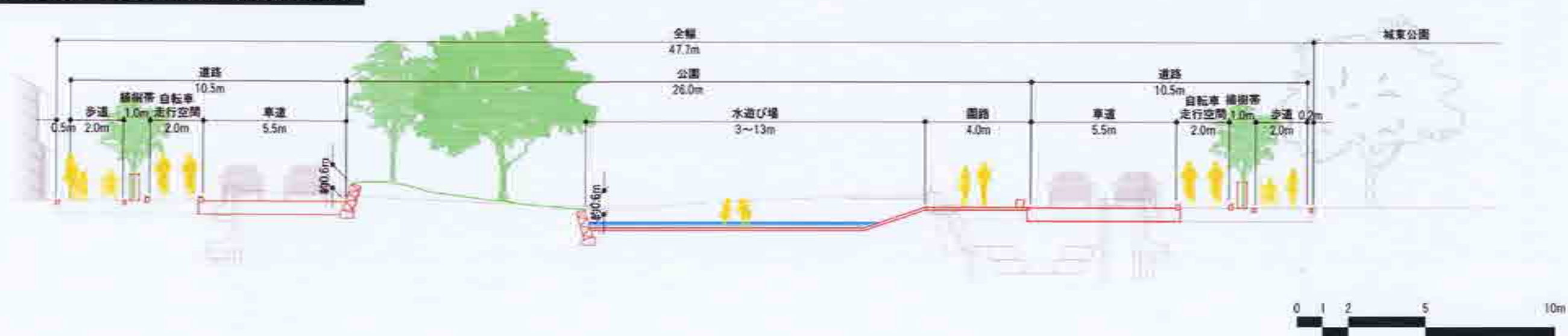
断面イメージ（B1-B1）：直線基調の並木道（カナル・トラック・桜並木）



平面イメージ (Bブロック：北側)



断面イメージ (B2-B2)：水遊び場・城東公園との連携



8. 臨川（堀川）沿道の整備（Cブロック）

シンボリックなサクラの広場とピオトープのある林間ゾーン

8.公園を印象付けるサクラ空間の確保

- ・仙台堀川公園を印象付けてきたサクラは、基調種として引き続き全域に配置するが、このゾーンでは、意識的に多く配置することで、「公園のシンボル」となる空間を目指す。
- ・なお、園外にもサクラの配置を行えば、さらに印象が強くなるため、地域への協力も検討していく。
- ※現在はソメイヨシノだが、立地的に弱いので樹種の入換えを検討する。

9.自然に倣ったピオトープ池への改善

- ・現在のガマの池やピオトープ池を機能継承のうえ統合し、規模の拡大を検討する。
- ・水生動植物の鑑賞しやすさのほか、隣接する小学校との連携から、学習の場としての機能も高める。
- ・自然の回復を念頭にホタルが飼育できる環境を目指す。

10.亀高公園・小学校との一体化

- ・道路舗装を園路と同じ印象を与える仕様として、一体化を図る。
- また、横断歩道の新設を検討する。
- ・公園側も植樹帯を創設するなど、広い舗装空間とすることで、イベント空間としての活用に対応する。



イベント林間広場

- ・お花見の時にイベントの要に対応できるように、中低木植栽を控えて林床をすっきりさせた空間とする。

土の広場

- ・軽運動のための空間としてクレイ舗装による広場は、要望を踏まえて適宜配置する。
- ・壁当ての設置は、要望を踏まえて検討する。
- ・一時駐車場所としても機能する。

アルファシティ大島

観察歩道（デッキ）

- ・学校から広くアプローチできるようにし、ゆっくりピオトープを観察できるように広がりを持つ歩行空間を水辺に沿わせて用意する。

沼池

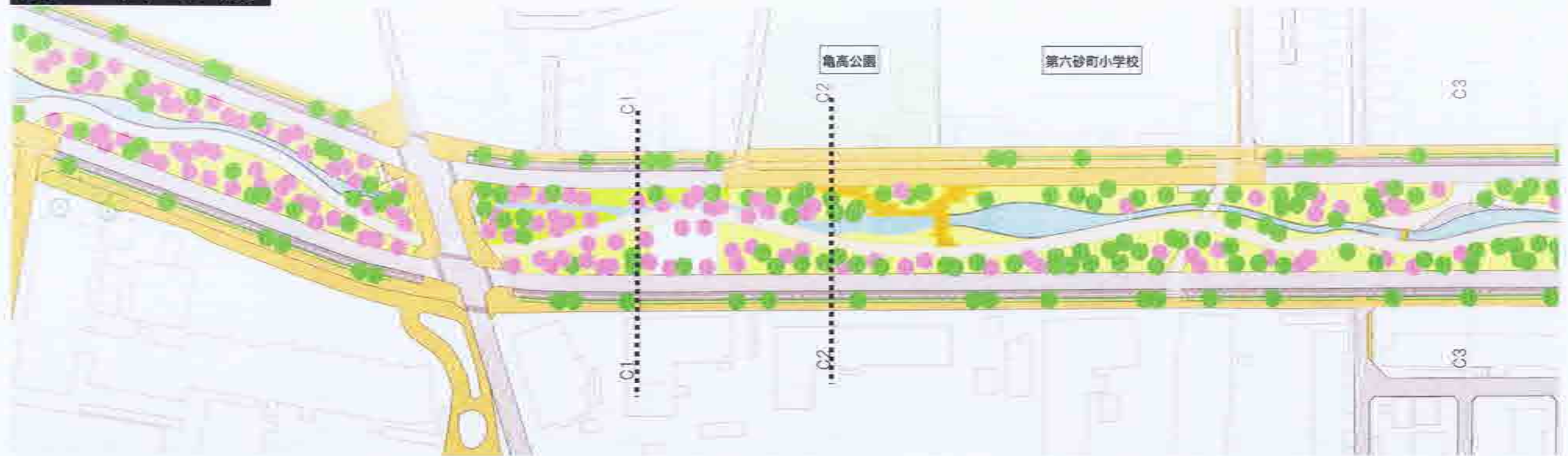
- ・水面を広く確保して、水際の水生植物やヤナギ（楊）類で部分的な緑陰提供など、生物の生息しやすい環境を創る



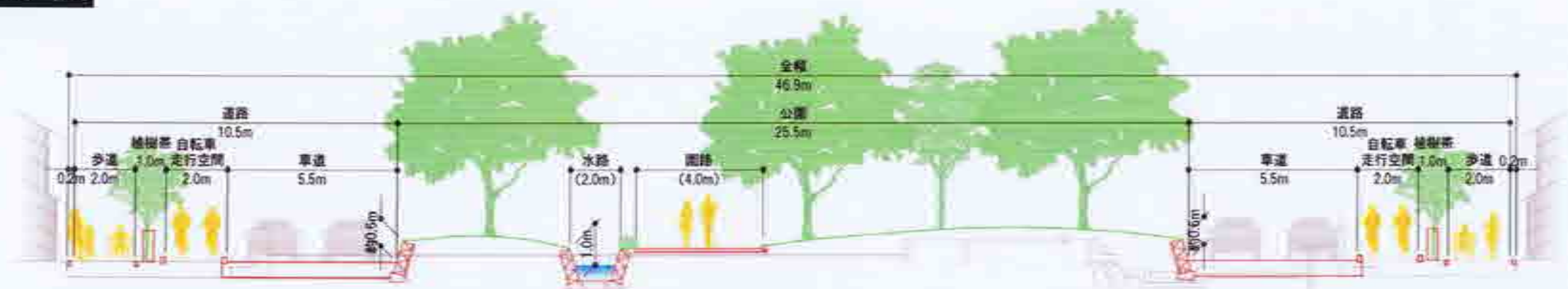
シンボリックなサクラの広場とビオトープのある林間ゾーン



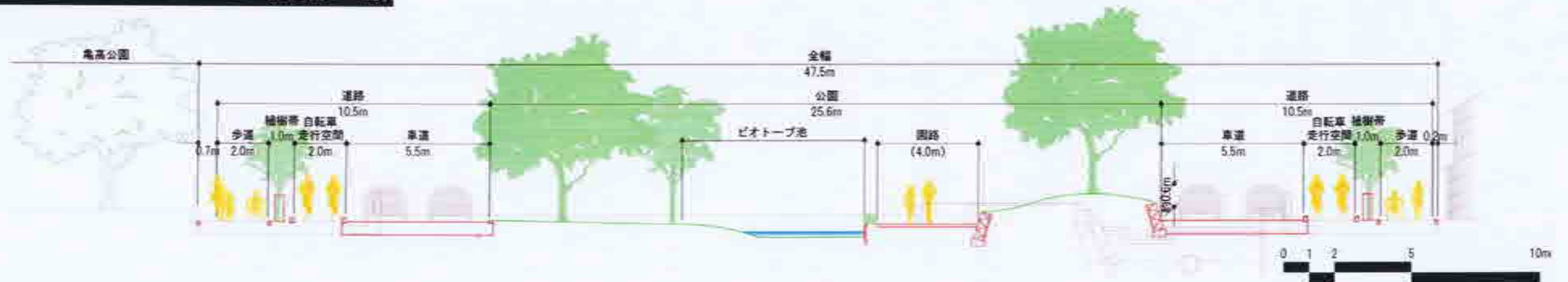
平面イメージ (Cブロック：南側)



断面イメージ (C1-C1)：小川・緑道



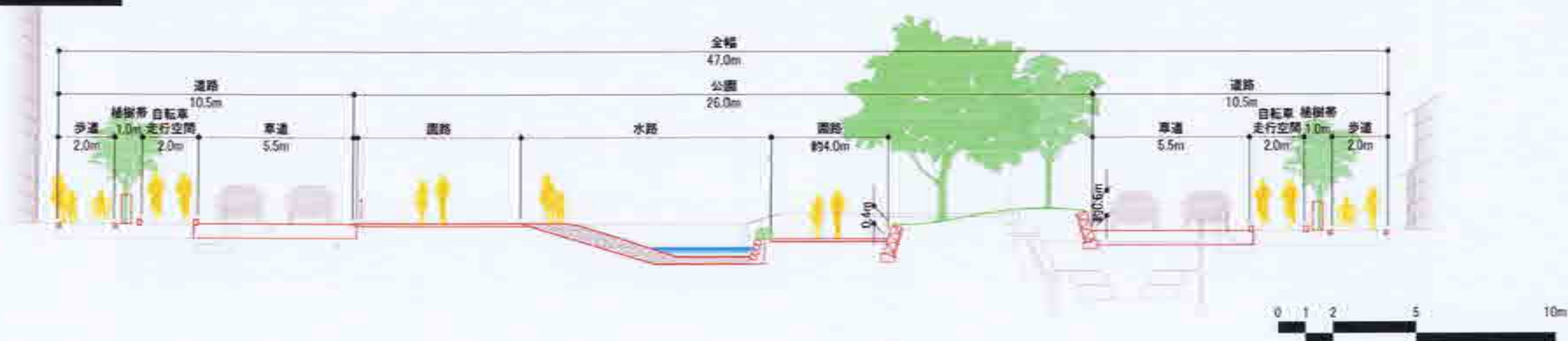
断面イメージ (C2-C2)：ビオトープ池・亀高公園との連携



平面イメージ (Cブロック：北側)



断面イメージ (C3-C3)：日本庭園



10 個別プロジェクトの方向性 (10プロジェクト)

水門と水辺の復元によるゲートゾーン

12.水門の復元

- ・両側道路への自転車道の設置に伴い、大半の護岸が失われることとなる。
- ・現在もその一部残る旧桜井水門の遺構を活かし、かつての運河の特長である水門の姿を復元することで、歴史を継承する。

水門

- ・遺跡イメージの強調として、水門の上にはシンボルとなる大木を設ける。

水門を見せる園路

- ・水門と正対する位置に園路を通す。
- ・屈折させることで見えに奥行きを与える。

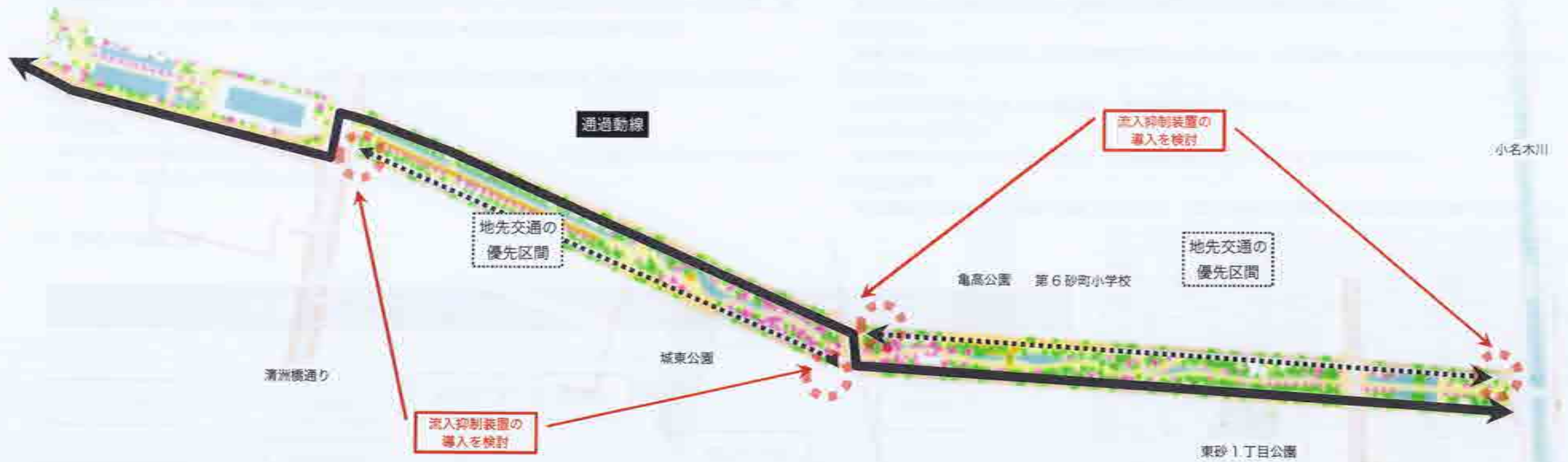


1. 計画内容

「3. 全体幅員構成」の通り、自動車は隣接する公園との一体化に配慮し、公園とは反対側の車道に誘導する。

また、自転車と歩行者は、公園内だけでなく、北の大島地区（小名木川以北）から南の南砂地区（葛西橋通り）までの区間でできるだけ交錯しない計画とした。

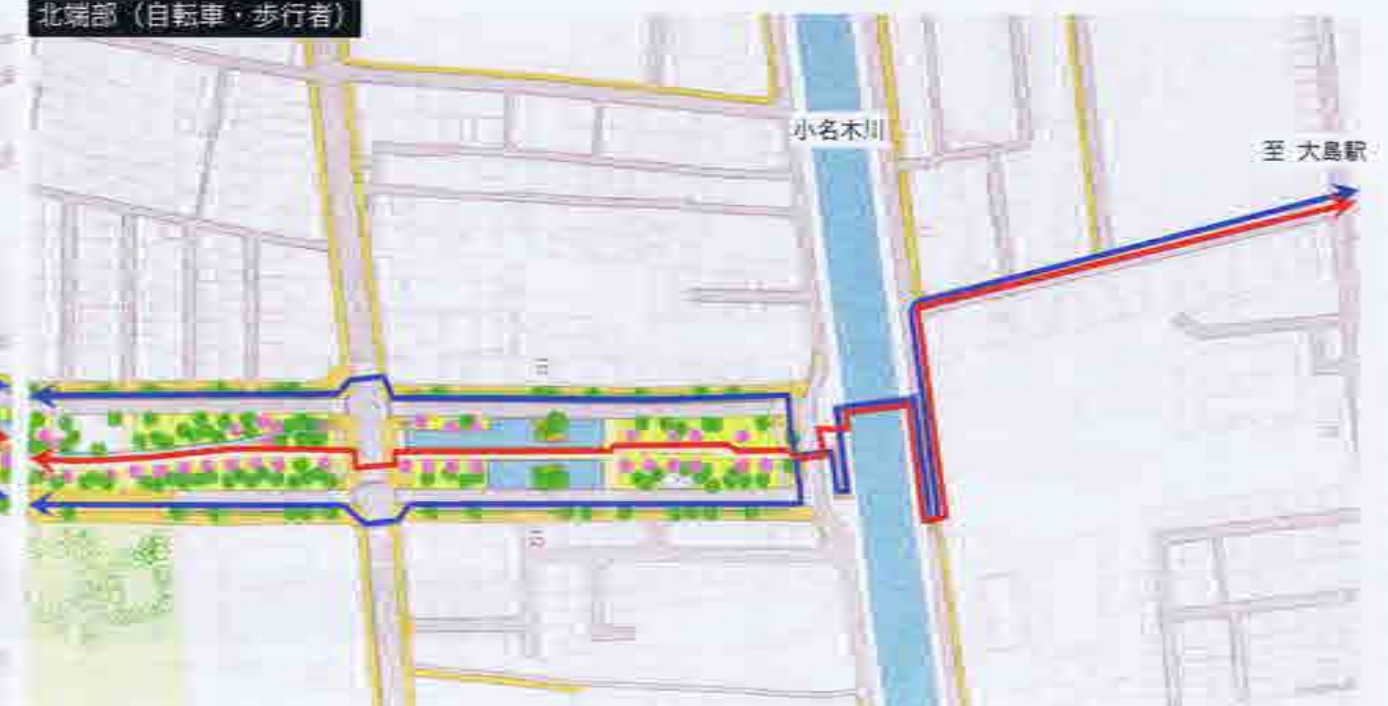
全体（車道）



南端部（自転車・歩行者）



北端部（自転車・歩行者）



凡例
— : 自転車動線 — : 歩行者動線